

本市におけるかかりつけ医の課題は

医師の高齢化や診療所等が少ないこと、かかりつけ医推進のより一層の啓発が課題



内藤 喜久枝
自由民主党田原市議団



かかりつけ医等の推進について

- 問** 本市におけるかかりつけ医の課題は。
- 答** 医師の高齢化や診療所等が少ないこと、かかりつけ医推進に対する、より一層の啓発が課題として挙げられる。
- 問** かかりつけ医は歯科の分野でも必要で、検診受診者はかかりつけ医を持っていることが多いと考えますが、市の考えは。
- 答** 乳幼児期は定期健診などをきっかけとし、また年齢が上がるほど治療が必要な方が増えるため、かかりつけ医を持つ方が増加すると考える。市としては、これらの状況を分析し、かかりつけ医の推進に生かしていく必要があると考える。
- 問** 在宅療養が必要になった時にかかりつけ薬剤師が訪問し、薬の管理説明を受けられる制度を市民に広く周知すべきだと考えるが、市の考えは。
- 答** お薬手帳の活用と合わせ、かかりつけ薬剤師を持つメリットを伝えていきたい。

- 問** 新型コロナウイルスワクチン接種をかかりつけ医で打つと安心と感じた方が多かったと聞いているが、市民の要望に対して市が行った対応は。
- 答** 医師会と協議を重ね、個別接種の予約枠を十分に確保し、より多くの市民がかかりつけ医で接種できるよう体制の整備に取り組んだ。
- 問** かかりつけ医以外による新型コロナウイルスワクチン集団予防接種に対する市民の不安や戸惑いへの対応は。
- 答** 電話や窓口での相談で、事前にかかりつけ医に相談するよう案内した。また、基礎疾患のある方などには、個別通知に同封したチラシや広報紙等で周知を行った。
- 問** 高齢化による在宅ケアや感染症の対応など、今後の地域医療におけるかかりつけ医等はさらに重要になると思うが、市の考えは。
- 答** 今後も国、県、近隣市町村の動向を注視し、医師会等と協力し、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師の推進をしていく。

地域の公園の在り方について

- 問** 市内の公園の配置状況はどのようになっていくのか。
- 答** 土地区画整理事業や宅地開発事業、地域の要望や実情に応じた整備など、地域により整備の時期や方法が様々で、全ての地域で等しく配置されている状況ではない。
- 問** 地域で等しく配置されることが難しい状況の中で、公園整備についての市の考えは。
- 答** 地域性や状況に応じて、整備の必要性を検討していく。
- 問** 地域にある身近な公園等については、災害時にどのような役割を期待しているのか。
- 答** 被災直後における近隣住民の緊急避難場所や、被災状況などを情報共有し、住民同士が助け合う「共助」の拠点として想定されるほか、救済活動拠点となる滝頭公園などの大きな公園を補完する場所として、様々な役割を期待している。

公園遊具の計画的な予防修繕の考えは

地域管理者への技術的な助言や補助金を活用した対応ができるように支援を行う



岡本 禎稔
自由民主党田原市議団

